

# 日本大学 三島同窓会大幸報

第 14 号

昭和 59 年 10 月 20 日  
静岡県三島市文教町 2  
日本大学三島同窓会発行



昭和五十九年度日本大学三島同窓会幹事会は、十月十八日(木)十八時三十分から母校日本大学三島学園八号館二階において四一名の幹事出席のもとで行われた。

会は染谷徳昭常任幹事の司会で進められ、西村満男会長の挨拶の後議長団・書記が選出され、議長に遠藤日出夫氏、副議長に小沢文郎氏を、書記には杉山謙氏・木村裕子氏をそれぞれ選出し議事に入り、次の事項が承認された。

一、昭和五十八年度事業報告  
二、昭和五十九年度決算報告

三、監査報告

四、昭和五十九年度事業計画案

五、昭和五十九年度予算案

六、昭和五十九年度総会について

七、活動状況報告について

八、その他

なお事業報告・計画については

角田義廣事務局長、予算・決算については土屋忠得会計担当常任幹事から説明、監査報告は中島敏男会計監査により行われた。

また、その他意見としまして(山内茂氏から)現在の歌集は古い歌ばかりで代り映えがしないので、若

い歌、新しい歌を取り入れてほしいとの意見があり、会長から前向きな姿勢で検討したいとの回答があつた。引き続き会長から二つばかり提案事項があり、

一、新総長の高梨先生に贈る記念品の件

三島学園から新総長が誕生したことにより、高梨先生に記念品を差し上げたい。

幹事会としては総会で提案し、会長以下事務局で記念品の選定について相談することになった。

二、奥田副会長辞任の件

現在、副会長の奥田吉郎氏が辞任したい、と要望があつたことに対し、出席会員全員が了承した。

しかし、欠員についてどうするかは会長以下事務局に一任ということになった。

最後に西村美枝子副会長の閉会のことばで無事幹事会は終了した。

幹事会の後に、引き続いて懇親会が開かれ、なごやかな雰囲気のもとでいろいろと懇談され八時四十五分終了した。

## 会員の皆様へ

会長 西 村 满男



日本大学三島同窓会員の諸兄姉に一言ご挨拶申し上げます。

故種房会長亡きあと、副会長の合議制で運営が続けられましたが、昨年秋の総会において会長に選ばれ拝受致しました。その席上早速

鈴木昇六先生を顧問にお迎えするという提案に対し、ご出席の皆様のご賛同を得、また長らくお務めいただいた瀬川事務局長と石川会計担当も、大学の管理職であると

同窓会の新しい時代に入ることになつたわけです。しかしそれはまた三島学園そのものも新しい局面を迎える前兆でもありました。

「やつと生きているうちに同窓会顧問にしてくれるか」と喜んでいただいた鈴木先生への弔辞が、新会長としての最初の仕事となつたことは誠に残念なことでした。

さらに大学内部では、高梨三島学

園長が第七代日本大学総長に就任

され、三島学園長を兼ねるべき国

際関係学部長には、予科時代から

馴染み深い蔵並教授が選ばれて、

ここに新しい時代が拓かれることとなりました。

前会長が、国際関係学部の在り

方として寄せられておりました、

とも同窓会に対する協力を約束さ

れております。

最後になりましたが、今春付属

博士課程大学院設置、諸外国に単

位互換契約校をつくる、留学生セ

ンターの建設、留学生の経済的支

えとなるスカラシップの設定、こ

れらの提案は、いずれも、その実

現を見るためには、莫大な資金を

念して、ご挨拶と致します。

しても、これらの問題点をいかに克服していくか検討中で、目前に迫った日本大学創立百周年の記念事業ともあわせて、何らかの面で前進の気運が高まりつつあることは、喜ばしいことであります。たま同窓会長が大学の教員であるということになりましたので、

これらの早期実現に、この二つの立場から微力をつくす所存であります。

昭4・3

京都市岡崎に出生

昭21・6

日本大学三島子科文科

入学

昭24・3

同終了

昭24・4

日本大学文学部英文学

昭48・4

日本大学文理学部教授

ライナ大学、テキサス

大学に留学

昭52・4

日本大学三島図書館長

昭54・4

日本大学国際関係学部

教授

海外出張を命ぜられアメリカ、ノースカロ

メリカ、ノースカロ

昭42・9

日本大学より

昭43・8

日本大学より

昭35・10

日本大学文理学部助教授

## 西村会長略歴

昭32・4

日本大学三島教養部高等

学校教諭

昭58・4

日本大学三島学園就職

教授

昭58・11

日本大学三島同窓会長

に就任

昭42・9

日本大学文理学部助教授

昭43・8

日本大学より

昭44・10

日本大学文理学部助教授

昭45・9

日本大学文理学部助教授

昭46・9

日本大学文理学部助教授

昭47・8

日本大学文理学部助教授

昭48・8

日本大学文理学部助教授

昭49・7

日本大学文理学部助教授

昭50・6

日本大学文理学部助教授

昭51・5

日本大学文理学部助教授

昭52・4

日本大学文理学部助教授

昭53・3

日本大学文理学部助教授

昭54・2

日本大学文理学部助教授

昭55・1

日本大学文理学部助教授

昭56・10

日本大学文理学部助教授

昭57・9

日本大学文理学部助教授

昭58・8

日本大学文理学部助教授

昭59・7

日本大学文理学部助教授

昭60・6

日本大学文理学部助教授

昭61・5

日本大学文理学部助教授

昭62・4

日本大学文理学部助教授

昭63・3

日本大学文理学部助教授

昭64・2

日本大学文理学部助教授

昭65・1

日本大学文理学部助教授

昭66・10

日本大学文理学部助教授

昭67・9

日本大学文理学部助教授

昭68・8

日本大学文理学部助教授

昭69・7

日本大学文理学部助教授

昭70・6

日本大学文理学部助教授

昭71・5

日本大学文理学部助教授

昭72・4

日本大学文理学部助教授

昭73・3

日本大学文理学部助教授

昭74・2

日本大学文理学部助教授

昭75・1

日本大学文理学部助教授

昭76・10

日本大学文理学部助教授

昭77・9

日本大学文理学部助教授

昭78・8

日本大学文理学部助教授

昭79・7

日本大学文理学部助教授

昭80・6

日本大学文理学部助教授

昭81・5

日本大学文理学部助教授

昭82・4

日本大学文理学部助教授

昭83・3

日本大学文理学部助教授

昭84・2

日本大学文理学部助教授

昭85・1

日本大学文理学部助教授

昭86・10

日本大学文理学部助教授

昭87・9

日本大学文理学部助教授

昭88・8

日本大学文理学部助教授

昭89・7

日本大学文理学部助教授

昭90・6

日本大学文理学部助教授

昭91・5

日本大学文理学部助教授

昭92・4

日本大学文理学部助教授

昭93・3

日本大学文理学部助教授

昭94・2

日本大学文理学部助教授

昭95・1

日本大学文理学部助教授

昭96・10

日本大学文理学部助教授

昭97・9

日本大学文理学部助教授

昭98・8

日本大学文理学部助教授

昭99・7

日本大学文理学部助教授

昭100・6

日本大学文理学部助教授

昭101・5

日本大学文理学部助教授

昭102・4

日本大学文理学部助教授

昭103・3

日本大学文理学部助教授

昭104・2

日本大学文理学部助教授

昭105・1

日本大学文理学部助教授

昭106・10

日本大学文理学部助教授

昭107・9

日本大学文理学部助教授

昭108・8

日本大学文理学部助教授

昭109・7

日本大学文理学部助教授

昭110・6

日本大学文理学部助教授

昭111・5

日本大学文理学部助教授

昭112・4

日本大学文理学部助教授

昭113・3

日本大学文理学部助教授

昭114・2

日本大学文理学部助教授

昭115・1

日本大学文理学部助教授

昭116・10

日本大学文理学部助教授

昭117・9

日本大学文理学部助教授

昭118・8

日本大学文理学部助教授

昭119・7

日本大学文理学部助教授

昭120・6

日本大学文理学部助教授

昭121・5

日本大学文理学部助教授

昭122・4

日本大学文理学部助教授

昭123・3

日本大学文理学部助教授

昭124・2

日本大学文理学部助教授

昭125・1

日本大学文理学部助教授

昭126・10

日本大学文理学部助教授

昭127・9

日本大学文理学部助教授

昭128・8

日本大学文理学部助教授

昭129・7

日本大学文理学部助教授

昭130・6

日本大学文理学部助教授

昭131・5

日本大学文理学部助教授

昭132・4

日本大学文理学部助教授

昭133・3

日本大学文理学部助教授

昭134・2

日本大学文理学部助教授

昭135・1

日本大学文理学部助教授

昭136・10

日本大学文理学部助教授

昭137・9

日本大学文理学部助教授

昭138・8

日本大学文理学部助教授

昭139・7

三島同窓会の諸兄姉には、ご健勝にて社会の各分野においてご活躍のことと存じます。

本年は母校日本大学また三島

学園において、人事面で代表者

の交代が行われた年となりました。大学全体からいえば、過去五期十五年にわたり、総長として大学興隆に尽瘁された鈴木勝

先生が退かれ、名誉総長となり、

九月から第七代総長として高梨

公之先生が就任され、さらに充

実発展をめざして新たなスター

トをしました。高梨総長就任に

ともない、これに関連して、三

島学園にも対応すべき事態が生

じました。これまで二期五年半

にわたり三島学園長・国際関係

学部長として、また大学院国際

関係研究科長の職にあつた高梨

先生が任期を残して退任される

ことになり、後任者を急遽選出

することになりました。その結果、不肖私が選出され、この十

月から三島学園長・国際関係学

部長・大学院国際関係研究科長

に就任いたしました。

高梨公之先生は同窓会諸兄姉

も周知のように、三島の責任者

になられる以前において、すで

に法学部長・理事長・副総長な

どを歴任された、いわば日本大

学生えぬきの大ベテランの先生

です。これに比べ引き継いだ私

は、皆様ご存知のようにまつた

は、鈴木昇六先生が去る二月十

七日に急逝されたことです。秋

葉安太郎先生とともに、三島学

園の生みの親、育ての親として、

三島開設以来幾多の苦難を乗り

ました。鈴木昇六先生も、これ

は、皆様ご存知のようにまつた

は、皆様ご存知のようにまつた

は、皆様ご存知のようにまつた

は、皆様ご存知のようにまつた

は、皆様ご存知のようにまつた

は、皆様ご存知のようにまつた

は、皆様ご存知のようにまつた

は、皆様ご存知のようにまつた

も、よろしくご支援のほど切に

お願いいたします。

今年の三島学園にとつて、い

ま一つ忘れられない悲しいこと

に法學部長・理事長・副総長な

どを歴任された、いわば日本大

学生えぬきの大ベテランの先生

です。これに比べ引き継いだ私

は、皆様ご存知のようにまつた

## ご挨拶

### 並省自

島大学祭期間中に開催される三

島同窓会の集まりには、必ず出

席され、同窓会諸兄姉の社会で

の活躍ぶりを、聞くのを楽しみ

にされて、いた鈴木昇六先生も、

今年は「みんな元気かね。これ

からもビシッと一本になつて、

今日は「皆さん元気かね。これ

もますます増加してゆく昨今

です。同じ日本大学の出身とい

う看板を背負つて、社会人とし

てお互いに親睦をふかめ、励ま

し合い、より充実したこころ豊

かな生活をめざして頑張つて下

さい。これがまた、母校日本大

学の名を世に高めることにもな

ります。

西村満男会長を中心

に、会の組織・運営を充実させ、一層の

发展向上をめざして、直面せる

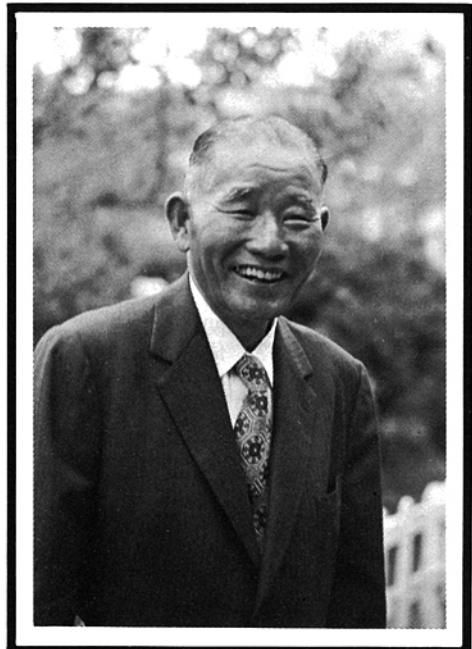
諸問題を解決すべき重要な時に、

松町の世界貿易センタービル内

にて開かれ、私も招待されまし

(日本大学三島学園長)  
(日本大学国際関係学部長)

# 故鈴木昇六先生を偲ぶ



## 弔辭

### 西村満男

先生とのお別れにあたり、個々の同窓生の想いをこめるには誠に意をつくしませんが、最後に会員一同、心から先生の御冥福を祈りつつ、弔辭いたします。

昭和五十九年二月二十日

西村 満男  
三島同窓会会长

日本大学三島同窓会を代表いたしまして、謹んで鈴木昇六先生の御靈前に弔辞を捧げます。

先生は、日本大学三島学園の開設にあたり、並々ならぬ御苦労を克服され、今日の確固たる基盤を築きあげられました。この間、同窓会の育成にも心を寄せられ、特に予科や教養部時代の同窓生の中に、個人的にも多大の恩恵を受けた者が数多くおります。私共同窓

生にとりまして、先生から受けた御恩の万分为の一もお返しできないまま、永久のお別れをしなければならなくなりましたことは、同窓生一同にとりまして痛恨の極みでございます。

昨年秋に同窓会長が代り、先生を顧問に仰いで、更に一層の組織の団結を図ろうとしておりましたのに、もはや先生のお言葉が戴けなくなりましたことは、残念でな

りません。

先生が日頃口癖のようになつて」と説かれておりました各組織の相互協力のお考えは、そのまま同窓会にも当てはまると思います。予科生として、教養部・文理学部・短期大学部各科、そして、国際関係学部の学生として、時代は異なり専攻は違つても、日本大学の三島キャンパスに学んだ者は、それぞれの同窓生であると共に、日本大学三島同窓会に一本化され、結束を固めつります。先生が現役を退かれましたあとは、お顔もお名前も存じあげない同窓生がおおくなりました。しかし、先生のお志は必ず受け継ぎ、語り伝えて、同窓会のバッケボーンにいたす所存でござい

ます。



## 鈴木昇六先生の略歴

明治四十四年六月二十三日、岩手県東磐井郡東山町長坂字町裏一二六に出生。

昭和十年三月、日本大学法文学部法律学科を卒業。  
昭和十八年十月、主事、日本大学農学部予科勤務。  
同年六月、学徒勤労動員支部主任。  
同年八月、農学部副鍊成監。  
昭和二十年八月、参事補、六会園事務次長、同經理監代理。  
昭和二十一年五月、参事に昇格。  
日本大学三島予科事務長に就任。  
同年十月、同予科經理監兼務。  
昭和二十四年四月、日本大学総長秘書役兼務。

同年七月、日本大学財務部次長。  
同年十二月、日本大学参与理事。  
昭和二十六年五月、日本大学評議員、学校法人日本大学理事。

同年十一月、日本大学管財部長。  
昭和三十三年一月、日本大学文理学部(三島)經理監。  
昭和三十三年六月、日本大学常務理事。

昭和三十四年一月、日本大学文理学部(三島)事務局長。  
昭和四十七年一月に依願退職。  
その後昭和四十七年二月、日本大学文理学部(三島)顧問として相談に当り、現在の三島学園の発展に大きな役割を果たされた。

昭和五十九年二月十七日(金)  
午後八時二十五分永眠。  
享年七十二歳。

私の昇六先生

西村美枝子

三島学園の一番美しい季節は、春四月桜が咲き、富士を背景にした校庭は理想の学園と言つてよいでしょう。この美しい理想の学園を生涯かけて造られた鈴木昇六先生と、ご一緒に見られなかつた今年の桜は、本当に寂しいことでした。

後年、学園のトイレを利用するたびに、学園が立派になつたと思ひます、とお話ししますと、「お前にはああしろ、こうしろと、何時もおどかされていたよ」と笑つておられました。学園全体が設備を必要としていた頃、数人の女子学生のためにお気遣い下さった事

りました。先生は三島学園を造り育ててこられたのに、裏方としていらしたため、三島に学んだ多くの学生が先生の偉大さを知らずに卒業し、三島を去ってしまうことは誠に残念でなりませんでした。

す。

鈴木昇六先生追悼

高田日出太郎

先生にお目にかかりますと皆  
と変らぬご闇達な話し方で、岩手  
弁とベランメ工調を交えて、キビ  
キビとしたお話しながら、背すじ  
が伸びる思いでした。合の手、馬  
鹿野郎共とか、デレデレしやがつ  
てとか、お言葉とは反対に温情が  
見え見えで、本当にこうなんだと  
私達にも判る微妙な話しかたでし  
た。

そのまま使つておりましたから、女子のための設備はまったく無いので、次々とお願ひに上るわけです。切実なのはお手洗で、セメントの床に長方形の穴があいているだけで、戸も破れたり閉まらないつたりの有様で、年頃の娘として

また、一面先生は折目正しく、

翌日、漸く開通した電車にて辻

ら、俺は死ぬまで学校へ行くよ」と、そして、それを実行されました。今も草葉の蔭から三島学園を守つて下さるに違ひありません。待望の四年制学部も出来、無い無いづくしの時代から空調設備の整備された13号館まで、一生かけてお造り戴き有難うございました。私もこれからは、先生のご意志を継いで、学園と後輩のお役に立つ様、心掛けて参りたいと存じます。

田 日出太郎

（三島同窓会副会長）  
合掌

あり、旧秩序は破壊され國体も政  
体も、そして、社会も教育もすべ  
てがその根幹から改変する激動の  
真只中である。そんな状況の中に  
先生は、新学園建設のため理想と  
情熱に燃えて骨を埋める覚悟で着  
任された。私は、偶々学級委員を  
していた関係で、学校当局と校舎  
教材等の整備進捗その他について  
話合う立場にあつた。これが先生  
と今日迄三十八年ご交誼戴いた奇  
縁となつたのである。

先生の八百戸三島学園」のイフワークが始った。その粉骨碎園の長い進程を経た今日の三島学生の姿が髪髪として映し出されるのは、私一人のまなこではないと思う。

「、俺は死ぬまで学校へ行くよ」  
く、そして、それを実行されました。  
ん。今も草葉の蔭から三島学園を  
すつて下さるに違ひありません。  
待望の四年制学部も出来、無い無  
づくしの時代から空調設備の整  
備された13号館まで、一生かけて  
お造り戴き有難うございました。  
私もこれからは、先生のご意志  
を継いで、学園と後輩のお役に立  
ン様、心掛けて参りたいと存じま  
す。  
合掌

ど出来る環境でなく、何よりも教室の整備が急務であった。先生はかかる荒廃加うるに財政難、物資不足の相乗困難の中に、敢然と一步步建設に取り組まれた。日ならずして整備されたが、粗末なものであった。しかし、当時の物資統制、インフレの中で短期間に整備されたことは、大変な力量であつたと抨察している。

幹	事 杉山 茂	(30・31)	幹	事 外立 啓子	(51・52)	幹	事 深井 富雄	(45・46)
幹	事 根岸 元宏	(31・32)	幹	事 中山 久子	(52・53)	幹	事 河田 哲雄	(46・47)
幹	事 加藤 三洲	(31・32)				幹	事 西家 勝彦	(51・52)
幹	事 渡部 浩司	(31・32)	幹	事 荒木とよ子 (飯村)	(39・40)	幹	事 勝呂 千明	(52・53)
幹	事 金沢 定徳	(32)	幹	事 萩野谷 肇	(41・42)			
幹	事 大村	(32)	幹	事 上田 定義	(41・42)	幹	事 今関 邦彦	(26・27)
幹	事 甲田 知由	(33)	幹	事 加藤 久貴	(46・47)	幹	事 横山 栄藏	(28・29)
幹	事 杉本 直志	(33)	幹	事 秋山 稔明	(46・47)	幹	事 加藤 晴俊	(30・31)
幹	事 市橋 悟	(34)	幹	事 前田 正丈	(47・48)	幹	事 山口 良児	(43・44)
幹	事 朴沢 英憲	(34・35)	幹	事 藤本 哲生	(47・48)	幹	事 山崎 光義	(44・45)
幹	事 吉野 洋一	(35)	幹	事 野田 栄	(47・48)	幹	事 加藤 博昭	(48・49)
幹	事 横田 晋朗	(35)	幹	事 棚橋 敏彦	(50・51)	幹	事 津田 正克	(50・51)
幹	事 鈴木 肇	(35)	幹	事 小松真由美	(51・52)	幹	事 後藤 善夫	(52・53)
幹	事 御供 政紀	(35・36)	幹	事 矢崎 真治	(53・54)	幹	事 今井みゆき	(52・53)
幹	事 小沢 文郎	(36)						
幹	事 大西 良雄	(37)	幹	事 木村 裕子	(50・51)	幹	事 遠藤日出夫	(37)
幹	事 小川 武司	(37)	幹	事 芹沢 春菜	(53・54)	幹	事 渡辺 博夫	(37)
幹	事 多田清太郎	(37)	幹	事 小泉 里見	(53・54)	幹	事 江川 洋	(42)
幹	事 坂口 正剛	(37)	幹	事 松嶋 絹江	(54・55)	幹	事 藤幡 俊量	(47)
幹	事 小石川宣照	(37)	幹	事 小林 美香	(55・56)			
幹	事 谷崎 邦昭	(38)	幹	事 池ヶ谷倫代	(57・58)	幹	事 斎藤 聰	(55~58)
幹	事 栗山 康雄	(39)	幹	事 石切山千佳	(57・58)	幹	事 松原 裕二	(55~58)
幹	事 両角 勇	(42)	幹	事 小沢里佳子	(57・58)	幹	事 賢川 晶子	(55~58)
幹	事 濱田 義之	(45)						
幹	事 高藤 省三	(49)	幹	事 宮下 正俊	(39・40)			
幹	事 河田 敏明	(50)	幹	事 瀬村 隆治	(42・43)			
幹	事 滝本 博	(53)	幹	事 吉田 力	(44・45)			
			幹	事 長倉 良幸	(44・45)			
			幹	事 前山 良光	(45・46)			
幹	事 山田 浩子	(41・42)	幹	事 早川 清文	(45・46)			
幹	事 岩崎 尚枝 (伊藤)	(41・42)	幹	事 管野 利幸	(45・46)			
幹	事 小永井京子	(43・44)	幹	事 三枝 和彦	(46・47)			
幹	事 平岩美知子 (金子)	(44・45)	幹	事 天野 寿一	(48・49)			
幹	事 高橋真理子 (大場)	(44・45)	幹	事 垣村 光伸	(53・54)			
幹	事 加藤 和代 (牧野)	(46・47)						
幹	事 石井千枝子	(46・47)	幹	事 中山 義昭	(41・42)			
幹	事 小林美佐枝 (矢沢)	(49・50)	幹	事 渡辺 清	(42・43)			
幹	事 戸塚 隆子	(50・51)	幹	事 赤地 哲也	(42・43)			

# 役 員 一 覧

(58. 11. 3 改選)

会長	西村 満男	(21~23)	常任幹事	井上かほる	(56・57)	幹事	辻 省二	(26・27)
副会長	遠藤 逸雄	(26・27)	会計監査	持田 光雄	(32・33)	幹事	田村 実	(26・27)
副会長	西村美枝子 (長谷川)	(22~24)	会計監査	中島 敏男	(30・31)	幹事	吉田 敏雄	(26・27)
副会長	見上 勇逸	(27・28)				幹事	渡辺 勝一	(26・27)
副会長	平井 千枝	(34・35)	幹事	高田日出郎	(21)	幹事	浅原 好胤	(26・27)
副会長	遠藤 治夫	(26・27)	幹事	馬場 康夫	(21・22)	幹事	宮崎 乾朗	(26・27)
副会長	高田 菊平	(36)	幹事	中野 繁	(21~23)	幹事	大井 徹也	(26・27)
事務局長	角田 義廣	(30・31)	幹事	石垣 義親	(21~23)	幹事	宮崎 茂樹	(27)
			幹事	石川 三雄	(21~23)	幹事	黒滝 祐司	(27・28)
常任幹事 (庶務担当)	久保田 勝	(38・39)	幹事	小野 真一	(21~23)	幹事	小林 義尚	(27・28)
常任幹事 (庶務担当)	佐野 勝己	(39・40)	幹事	米内 国夫	(21~23)	幹事	鈴木 邦良	(27・28)
常任幹事 (会計担当)	土屋 忠得	(40・41)	幹事	澤 直和	(21~23)	幹事	佐藤 力男	(27・28)
常任幹事	宮沢 主計	(25・26)	幹事	滝川 昇	(22・23)	幹事	田村 栄一	(27・28)
常任幹事	井川 一見	(26・27)	幹事	秋山 正幸	(22~24)	幹事	宮澤 基人	(27・28)
常任幹事	市川 紀子	(37・38)	幹事	中浜 卓弥	(22~24)	幹事	鈴木 稔	(27・28)
常任幹事	小出 博	(40・41)	幹事	中塙 利雄	(22~24)	幹事	上野 実	(27・28)
常任幹事	柴田 正	(41・42)	幹事	北條 晃	(22~24)	幹事	関本 文彦	(27・28)
常任幹事	土屋 貞明	(42・43)	幹事	長田 渉	(22~24)	幹事	真部 喜孝	(27・28)
常任幹事	小早川隆義	(42・43)	幹事	山内 茂	(22~24)	幹事	結城 勇一	(27・28)
常任幹事	中村 愛子 (宮沢)	(42・43)	幹事	川口 正信	(22~24)	幹事	高田 全司	(27・28)
常任幹事	染谷 徳昭	(42・43)	幹事	小林 昭雄	(22~24)	幹事	丸山富美男	(28)
常任幹事	田中 由雄	(42・43)	幹事	柳下 (村松) 孝子	(23・24)	幹事	小椋 貞夫	(28・29)
常任幹事	渡辺 忠昭	(42・43)	幹事	中島 信行	(23~25)	幹事	坂詰 正衛	(28・29)
常任幹事	林田 孝二	(43)	幹事	金田 豊	(23~25)	幹事	鈴木 義樹	(28・29)
常任幹事	相田 信次	(44・45)	幹事	松本 秀雄	(23~25)	幹事	望月 知林	(28・29)
常任幹事	鈴木 正八	(44・45)	幹事	木村 (中原) 幸夫	(23~25)	幹事	麓 高明	(28・29)
常任幹事	久保田博明	(45・46)	幹事	勝俣 故充	(23~25)	幹事	安東 安生	(29・30)
常任幹事	榎本 瞳美	(45・46)	幹事	池上 昭三	(24)	幹事	田嶋 文義	(29・30)
常任幹事	西野 和衛 (望月)	(46・47)	幹事	芦澤 克治	(24・25)	幹事	寺崎 哲郎	(29・30)
常任幹事	江本 博勝	(46・47)	幹事	石川 進	(25・26)	幹事	関 哲男	(29・30)
常任幹事	宮川 守	(47・48)	幹事	矢沢 知秋	(25・26)	幹事	林田 (中村) 達郎	(29・30)
常任幹事	杉山 謙	(48)	幹事	長倉 祐作	(25・26)	幹事	森 伸夫	(30・31)
常任幹事	沼上 博美 (伊出)	(48・49)	幹事	白鳥 義仁	(25・26)	幹事	道見 俊廣	(30・31)
常任幹事	大島 裕二	(52・53)	幹事	伊藤 悟	(25・26)	幹事	小野 武	(30・31)

# 昭和58年度 事業報告

## 1. 奨学金の給付並びに同窓会長賞授与

昭和58年度日本大学三島学園在学生から、次の者が推薦された。国際・短大関係は、昭和59年3月25日の卒業式当日（日本武道館）、学部教養課程は、4月9日の三島学園開講式当日それぞれ授与式が行なわれた。

奨学金 4名	平野 雅之（国際関係学科）	福田 勝弘（国際文化学科）
	村井 保夫（法學部）	中村 光宏（文理学部）
同窓会長賞 4名	畔柳 瞳子（文科・国文専攻）	遠藤 真弓（商経科・一部）
	和田 恵子（家政科・食栄専攻）	杉山 勝行（商経科・二部）

## 1. 学園歌集発行

学園歌21首を38頁に収め、3,000部を発行し、三島学園新入生全員に入学祝として渡した。

## 1. 総会並びに懇親会

昭和58年11月3日(木)15時30分から、総会並びに懇親会を日本大学三島学園記念館で開催した。

なお、総会後、故種房繁会長の追悼会が行なわれた。

## 1. 幹事会

昭和58年7月7日(木)18時30分から、日本大学三島学園8号館2階で開催した。

## 昭和58年度 収支決算書

(昭和58年4月1日～昭和59年3月31日)

(単位：円)

支 出				収 入			
項 目	予 算 額	決 算 額	差 異	項 目	予 算 額	決 算 額	差 異
奨学費	550,000	63,500	486,500	会費収入	1,820,000	1,827,000	△ 7,000
学園歌集発行費	200,000	165,000	35,000	雑収入	764,101	844,109	△ 80,008
同窓会報発行費	200,000	227,000	△ 27,000	前受金収入	900,000	1,009,000	△ 109,000
各科同窓会等補助	800,000	540,000	260,000				
総会並びに懇親会費	430,000	431,680	△ 1,680				
会議会合費	250,000	284,990	△ 34,990				
通信運搬費	100,000	42,660	57,340				
事務費	30,000	37,100	△ 7,100				
雑費	300,000	539,050	△ 239,050				
予備費	200,000	0	200,000				
計	3,060,000	2,330,980	729,020	計	3,484,101	3,680,109	△ 196,008
基金繰入額	0	340,000	△ 340,000	基金繰出額	440,000	0	440,000
次年度繰越金	900,000	1,045,028	△ 145,028	前年度繰越金	35,899	35,899	0
前受金	900,000	1,009,000	△ 109,000				
繰越金	0	36,028	△ 36,028				
合 計	3,960,000	3,716,008	243,992	合 計	3,960,000	3,716,008	243,992

## 貸借対照表

(昭和59年3月31日現在)

(単位：円)

借 方		貸 方	
項 目	金 額	項 目	金 額
普通預金	1,485,028	基 金	16,640,000
定期預金	16,200,000	前 年 度 繰 越 額	16,300,000
		本 年 度 繰 入 額	340,000
		次 年 度 繰 越 金	1,045,028
		前 受 金	1,009,000
		繰 越 金	36,028
合 計	17,685,028	合 計	17,685,028

昭和58年度収支について関係帳簿ならびに証憑書類を精査いたしましたが、記帳その他正確であることを認めます。

昭和59年10月18日

会計監査 中島敏男 

持田光雄 

# 昭和59年度 事業計画

## 1. 獎学金の給付並びに同窓会長賞授与

日本大学三島学園を昭和60年3月卒業予定（国際・短大）、移行予定（学部教養課程）の者を対象とする。

教養課程（法・経・商・文理）…………若干名宛奨学金（2名程度）

短期大学部各科……………各1名宛奨学金または同窓会長賞

国際関係学部……………各科1名（計2名）奨学金

## 1. 学園歌集発行

本年度は、発行しないので、昨年度の歌集を三島学園新入生全員に入学祝として渡す。

## 1. 会報発行

会報14号（昭和59年10月）発行 10頁 4,000部

会報15号（昭和60年1月）発行 8頁 4,000部

## 1. 名簿発行

役員名簿を作成する。更に短大科別、教養期別名簿作成を推進する。

## 1. 総会並びに懇親会

昭和59年11月3日(土)16時から、日本大学三島学園記念館で開催する。

## 1. 幹事会

昭和59年10月18日(木)18時30分から、日本大学三島学園8号館2階において開催する。

# 昭和59年度 収支予算書

(昭和59年4月1日～昭和60年3月31日)

(単位：円)

支 出				収 入			
項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減(△)	項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減(△)
奨 学 費	550,000	550,000	0	会 費 収 入	1,910,000	1,820,000	90,000
学園歌集発行費	200,000	200,000	0	雑 収 入	953,972	764,101	189,871
同窓会報発行費	300,000	200,000	100,000	前 受 金 収 入	900,000	900,000	0
各科同窓会等補助	500,000	800,000	△ 300,000				
総会並びに懇親会費	450,000	430,000	20,000				
会議会合費	270,000	250,000	20,000				
通信運搬費	100,000	100,000	0				
事務費	30,000	30,000	0				
雑費	300,000	300,000	0				
予備費	200,000	200,000	0				
計	2,900,000	3,060,000	△ 160,000	計	3,763,972	3,484,101	279,871
基 金 繰 入 額	0	0	0	基 金 繰 出 額	0	440,000	△ 440,000
次 年 度 繰 越 金	900,000	900,000	0	前 年 度 繰 越 金	36,028	35,899	129
前 受 金	900,000	900,000	0				
繰 越 金	0	0	0				
合 計	3,800,000	3,960,000	△ 160,000	合 計	3,800,000	3,960,000	△ 160,000

## 高梨公之先生

### 第七代総長に就任

日本大学次期総長を決める総長選挙が行われ、六月二十九日の決選投票の結果、三島学園長・国際関係学部長の高梨公之先生が当選し、九月一日付で三島学園から第七代新総長が誕生した。

なお、九月十日日本大学会館において本学第七代総長の就任式が行われた。



## 第二グラウンド

### 野球場開き

昭和五十九年八月三十日午前十一時三十分、三島市御園にある第二グラウンドの野球場開きが行われ、引き続き午後一時から日大三島高校と日大高校（神奈川県横浜市）との招待試合が行われた。

既設の野球場が、このたびの改修工事により整備されたわけであるが、新装なつた野球場は、第二グラウンド総面積約八万三千平方メートルのうち一万二千二百九十一メートルのうち、翼九十五メートル、中堅百二十メートル、バックスネットは高さ十メートル、四・九メートル、長さ六十二メートル、ダッガーアウト、また、スプリンクラー四基、ホース散水二か所も備えられている。

大学、高校をはじめ、学外団体を含め積極的な利用により、その価値が益々高まることを期待したい。



## 第34回三島大学祭

講師 広島YMCA平和研究所  
テーマ「軍縮」  
文化講演 一三三八教室  
講師 朝日ジャーナル編集長  
筑紫哲也氏  
テーマ「日韓関係及び日本と  
アジア・アフリカの関係」  
献血 九・三〇一 大講堂前

恒例の三島大学祭は、本年も十一月一日から四日まで、四日間にわたって開催されることになります。

わたつて開催されることになります。今年の実行委員会は、委員長の国際関係三年・高野誠君の人徳もあって一七五名という、過去に例のない規模の大きな委員会組織となつた。

十一月一日、午後二時出発の市中パレードに始まり、午後四時、開会式に続いてファイアーストームを開いた初日祭で初日を終わり、二日、三日、四日の三日間

一般公開される。統一テーマは、感嘆符「！」で、その時のインパクトは？大学祭を通して今まで見過ごしてきたことに気づき、今本當にしなければならないことは何か、を考えるのが狙いである。

◇十一月一日(木)  
市中パレード 二・〇〇一  
開会式 四・〇〇一  
市内一周 グラウンド  
演武会 一二・〇〇一  
大講堂

◇十一月四日(日)  
閉会式 三・〇〇一  
大講堂  
記念コンサート 一・〇〇一  
野外ステージ  
スター・ダスト・レビュー

大講堂  
音楽等発表会・八号館三階、ラグビー、サッカー等の親善試合、クラブ参加模擬店、お祭り広場等。